

乳幼児を持つ人々の交通行動とその支援に関する研究 ～地方都市を対象として～

福岡大学 辰巳 浩, 堤 香代子, 岡 泰佑

1. はじめに

近年、わが国では少子化が深刻化し社会問題となっている。その打開策の一つとして、子育て環境の向上が求められており、様々な分野で子育て支援がなされている。交通分野においては、「高齢者、障がい者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー新法）」が2006年に施行され、高齢者や身体障がい者に対する支援は進んでいる。しかし、バリアフリーに関する法律では高齢者や障がい者が対称であり、乳幼児連れは非対象であることから分かるように、乳幼児連れへの支援は乏しい状況といえる。

そこで本研究は、乳幼児連れの人々が交通行動を行う上での問題点を把握し、その改善案を見つけ分析した。なお、地方都市では自動車の利用が多いことから、特に「自動車交通」に着目し、下記の4項目を明確にすることを目的とする。

◇研究の目的

- (1)乳幼児連れの人々の交通手段の把握
- (2)乳幼児連れの交通手段を自動車に限定した場合の問題点
- (3)乳幼児連れが移動を行う上での問題点

バリアフリーに関する法律	
年月日	法 律
1994年 6月29日	ハートビル法 公布
2000年 5月17日 11月15日 12月22日	交通バリアフリー法 公布 交通バリアフリー法 施行 ハートビル法 最終改正
2003年 4月1日	ハートビル法 施行
2006年 6月21日 12月20日 12月20日 12月20日	バリアフリー新法 公布 バリアフリー新法 施行 ハートビル法 廃止 交通バリアフリー法 廃止

2. 調査の概要

保育園および幼稚園の利用者を調査対象とし、すなわち仕事を持つ母親と専業主婦の移動実態と意識について分析を行った。調査票の配布・回収は保育園および幼稚園の協力により保護者への連絡帳に挟み込むことで行った。

平成22年11月に、福岡市中央区、西区、城南区の保育園9ヶ所を対象に870部配布し、452部回収(回収率52.0%)した。また、平成23年10月に、福岡市中央区、城南区、早良区の幼稚園16ヶ所を対象に、2,394部配布し、1,221部回収(回収率51.0%)した。

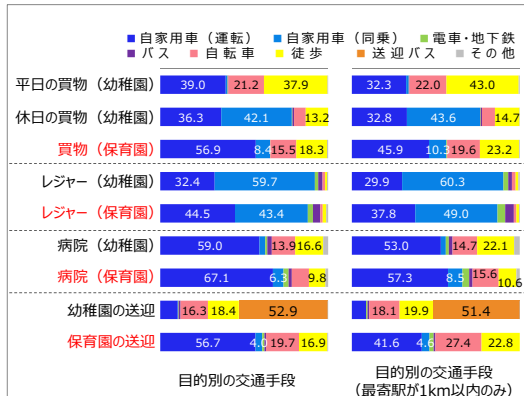
アンケート調査項目

個人属性	①性別 ②年齢 ③就業 ④住所 ⑤子供の人数 ⑥最寄り駅の有無 ⑦食材の宅配利用状況 ⑧自家用車の有無および利用頻度
外出目的別の交通状況	買い物に行く場合(平日・休日) : ①利用スーパー名 ②スーパーまでの距離 ③交通手段 レジャーの場合 : ④外出頻度 ⑤交通手段 公園へ行く場合(平日・休日) : ①よく利用する公園 ②交通手段 病院行く場合 : ①交通手段 保育園および幼稚園の送迎の場合 : ①幼稚園までの距離 ②交通手段 ③保育園までの送迎時間
運転(同乗)する際の交通状況	◆運転中最も気を付けること スーパーへ行く際の交通状況(平日・休日) ◆駐車場の利用満足度 ◆駐車後の利用満足度 公園へ行く際の交通状況(平日・休日) ◆駐車場の利用満足度 ◆駐車後の利用満足度

※赤字は幼稚園に配布したアンケートの追加項目を示す。

3. 調査結果

◇外出目的別の交通手段



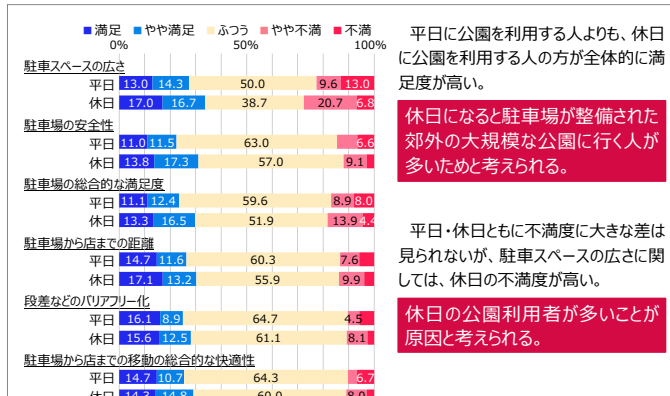
目的別交通手段では、自家用車の利用割合(運転+同乗)は、レジャーが9割、休日の買い物8割弱、休日の公園が6割と、マイカーの利用割合が高い。

休日は「同乗」という形の自家用車の利用が多い。

最寄り駅が1km以内にある人の目的別交通手段では、自家用車の利用割合(運転+同乗)は、レジャーが9割、休日の買い物7割強、休日の公園が5割強、マイカーの利用割合が高い。全体と比較しても交通手段の割合に大きな差は見られない。

最寄り駅が自宅近くにあっても自家用車を利用する傾向が強く、公共交通を利用する人は少ない。

◇よく利用する公園の駐車場の満足度



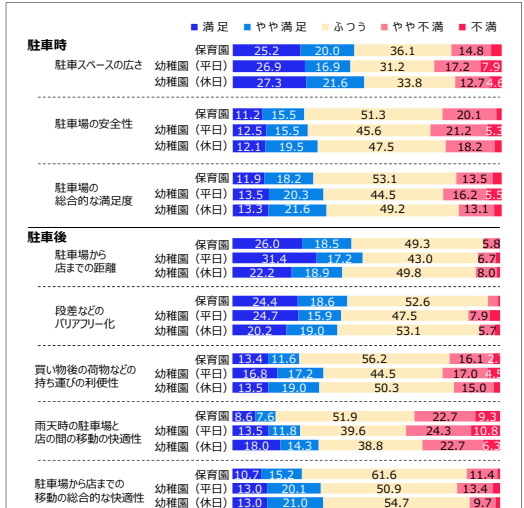
平日に公園を利用する人も、休日に公園を利用する人の方が全体的に満足度が高い。

休日になると駐車場が整備された郊外の大規模な公園に行く人が多いと考えられる。

平日・休日ともに不満度に大きな差は見られないが、駐車スペースの広さに関しては、休日の不満度が高い。

休日の公園利用者が多いことが原因と考えられる。

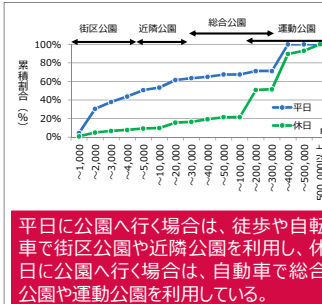
◇よく利用するスーパーの駐車場の満足度



平日・休日ともに雨天時の駐車場と店の間の移動の快適性について不満度が高い。また、休日利用者は平日利用者とは、大半の項目で満足度の高い。

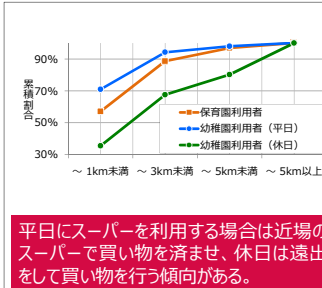
休日はより遠くのスーパーを利用していることから、満足度の高いスーパーを選んでいると考えられる。

◇平日・休日に利用する公園の広さ



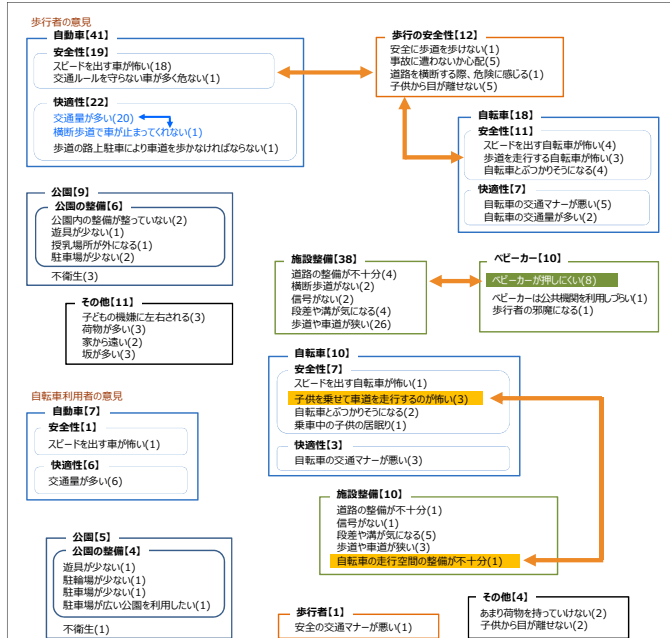
平日に公園へ行く場合は、徒歩や自転車で行く公園や近隣公園を利用し、休日に公園へ行く場合は、自動車で行く公園や運動公園を利用している。

◇よく利用するスーパーまでの距離



平日にスーパーを利用する場合は近場のスーパーで買い物を済ませ、休日は遠出して買い物を行う傾向がある。

◇平日に公園へ行く場合の自由意見



4. まとめ

本研究では、地方都市の保育園利用者と幼稚園利用者を対象にアンケート調査を実施し、乳幼児連れの移動実態とその意識について分析した。その結果、次のことがわかった。

- 平日は徒歩や自転車を主な交通手段とし、休日は同乗して自動車を利用している。
- 保育園利用者と幼稚園利用者の交通手段に大差はなく、職業の有無との関連性は薄い。
- 乳幼児連れの人々は公共交通を利用できる環境であってもマイカーに依存する傾向が強い。
- マイカーで平日に買い物に行く場合のほとんどが近場を選択しており、休日は遠くのスーパーを選択している。
- 遠くのスーパーの駐車に関する満足度が高い。
- 雨天時の移動の快適性には改善の余地がある。乳幼児連れの人々の支援策として、屋根付きの駐車場の整備することが望ましいといえる。屋根が設けられない場合でも、店舗入口付近に身障者用駐車スペースと同様、乳幼児連れ優先駐車スペースを設けるなどの方策が考えられるだろう。
- 公園へ行く場合、平日は近所の近隣公園や街区公園を利用し、休日はマイカーで総合公園へ行っている。
- 公園の駐車場に関しては、平日よりも休日の方が満足度は高い。
- 公園へ行く際の課題点、自由記述より、徒歩視点からの意見が多く、歩行空間の整備に力を入れる必要性があると思われる。また、自転車に関しても自転車走行空間の整備に力を入れる必要性があると思われる。

